

Title	<III>教育・授業改善、FD
Author(s)	山田, 剛史; 松下, 佳代; 田口, 真奈; 福田, 宗太郎; 後藤, 崇志
Citation	CPEHE Annual Report = 京都大学高等教育研究開発推進センター活動報告 (2017), 2016: 6-15
Issue Date	2017-03-15
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/226153">http://hdl.handle.net/2433/226153</a>
Right	
Type	Article
Textversion	publisher

### Ⅲ. 教育・授業改善、FD

京都大学では、「全学的なファカルティ・ディベロップメント(FD)について企画・実施するとともに、FD勉強会を通じて部局のFD活動を支援し、専任教員の75%以上の受講を目指す」「大学教員を目指す大学院生等に対するプレファカルティ・ディベロップメント(プレFD)を実施する」ことが第3期中期目標・中期計画として掲げられています。

本センターは、FD研究検討委員会等の活動を支援し、学内のFDの状況に関する情報共有を推し進めると共に、各部局と連携して、部局FDの支援を行っています。また、大学教員を多く輩出する研究大学の責務として、正規ファカルティになる前のODあるいは院生を対象としたプレFDも実施しています。

#### 1. 新任教員教育セミナー

本センターでは、2010年度より教育推進・学生支援部教務企画課の支援を受けながら、京都大学に新たに採用された新任教員を対象とした新任教員教育セミナーを実施しています。2016年度はその7回目になります。

「京都大学らしい教育とはどのような教育か」を考え、「学内にはどのような教育サポートリソースがあるのか」「大学・部局や教員はどのような教育課題を抱え、それにどのように取り組んでいるのか」を知ってもらうための機会となっています。

##### (1) プログラム

本セミナーは、例年、前期の教育経験を踏まえることが可能な9月に実施しています。2016年度は、9月1日に百周年時計台記念館国際交流ホールにて行いました。プログラムは表1の通りです。全学、部局、個々の教員という異なるレベルでの教育的取組を、ミニ講義や討論などを通じて理解してもらうことを意図して設計されています。

**表1 2016年度 京都大学新任教員教育セミナープログラム**

12:45～	受付
13:00～	開会式 (司会:高等教育研究開発推進センター准教授 山田 剛史) 趣旨説明 高等教育研究開発推進センター教授 松下 佳代
13:05～	セッション1 オープニングレクチャー:「現在の大学教育の動向と京都大学の教育改革」 理事・副学長(教育・情報・評価担当) 北野 正雄
13:25～	セッション2 ミニ講義:「京大の教育的取組:ICTを活用した教育の展開」 FD研究検討委員会委員長・高等教育研究開発推進センター長 飯吉 透
13:45～	セッション3 本学教員による教育実践紹介 私の授業①(文系) 人間・環境学研究科共生人間学専攻思想文化論講座教授 安部 浩 私の授業②(理系) 農学研究科応用生物科学専攻長・教授 松浦 健二
14:25～	「京大の教育・学習支援」 高等教育研究開発推進センター研究員 斎藤 有吾
14:30～	休憩
14:50～	セッション4 グループ別セッション(参加型セッション)
16:40～	休憩
17:00～	インテグレーションセッション
17:30～	閉会式 挨拶 FD研究検討委員会委員長・高等教育研究開発推進センター長 飯吉 透

セッション1では、オープニングレクチャーとして、北野正雄教育担当理事より、「現在の大学教育の動向と京都大学の教育改革」と題した講義を行っていただきました。

セッション2では、京大の教育的取組として、飯吉透高等教育研究開発推進センター長より、ICTを活用した教育の展開について報告がありました。

セッション3では、本学教員による教育実践紹介（「私の授業」）として、人間・環境学研究科の安部浩教授、農学研究科の松浦健二教授のお二人の先生に自身の授業実践について紹介していただきました。

セッション4は、グループ別セッションで、2016年度からより参加型のセッションへとシフトしています。2016年度は、表2のようなテーマを掲げ、学内の先生方にもご協力いただきながら、5つのグループ別セッションが行われました。

表2 セッション4 グループ討論「京大でどう教え、指導するか」各テーマと内容			
テーマ	担当講師	主な内容	ファシリテーター (センター担当者)
「英語による授業」を担当することになったら	高等教育研究開発推進センター長・教授 飯吉 透 総合生存学館准教授 Marc-Henri DEROCHE	英語による授業を急に担当することになったとしたら困惑する教員も多いのではないだろうか。ここでは、そのような事態になった場合に、どのように考え、何から準備すればよいのかについて考える。	鈴木 健雄 特定研究員
研究室をどう運営するか	学際融合教育研究推進センター 准教授 宮野 公樹	教員にとっての研究推進の場、そして高度な人材育成の場である研究室。研究室を、研究と教育の原動力として機能させるには？	奥本 素子 特定准教授
困難を抱えた学生に向き合うには	学生総合支援センター長・教授 杉原 保史	修学上、研究指導上の不適応を起こした学生・院生に対し、教員はどう向き合えばよいのだろうか。また、対応が必要なのはどのような場合なのか。	松下 佳代 教授
講義科目でおこなうアクティブラーニング型授業	高等教育研究開発推進センター 教授 溝上 慎一	50-150人規模の講義科目でどのように学生に授業に参加させるか、アクティブラーニング（講義で聴くだけでなく、書く、話す、発表するなどのアウトプットの学習活動を入れるか）を、理論的、実践事例を交えてセミナーをおこないます。後期からすぐ導入できるやり方、少しアドバンスですが、クリッカーを用いたピアインストラクションの技法をお伝えします。アクティブラーニングについてまったく初めての方から、少しやったことあるが、この機会にしっかり学びたいという方まで参加可能です。ご参加をお待ちしています。	福田 宗太郎 特定研究員
ICT活用による教育 —反転授業を中心に—	高等教育研究開発推進センター 准教授 酒井 博之／田口 真奈	インターネット上の教育リソースや、既存のICTツールを授業に取り入れることで、授業時間を効果的に使い、教育効果をあげることができます。講義内容を授業外に映像等で学び、教室内では応用的な課題に取り組む「反転授業」という授業形態もその一つです。ここでは、実践事例や、簡単に使える様々なリソースを紹介します。	岡本 雅子 特定助教



## (2)参加者

本セミナーは、教育目的に限定して設計されているため、受講対象となる新任教員を、「平成27年度の本セミナー実施以降、本学に採用されて、正規科目を担当している者」と定義した上で、教育推進・学生支援部教務企画課経由で、各部局に対して参加者依頼通知を行いました。当日の参加者は105名（内訳：教授12、准教授29、講師15、助教49）でした。

## (3)参加者からの評価

セミナー参加者に対して、セミナーに対する意見・感想を問う事後アンケートを行いました。その結果、91名から回答が得られました。

### ①プログラムの有意義度

プログラム全体の有意義度は、5段階で4.1（有意義と回答した割合は85%）と高い値が得られました。個々のセッションで見ると、グループ別セッションが最も高く（4.5）、次いで私の授業（4.3）、そして2016年度から導入したインテグレーションセッション（4.2）となっていました。

### ②セミナー開催時期について

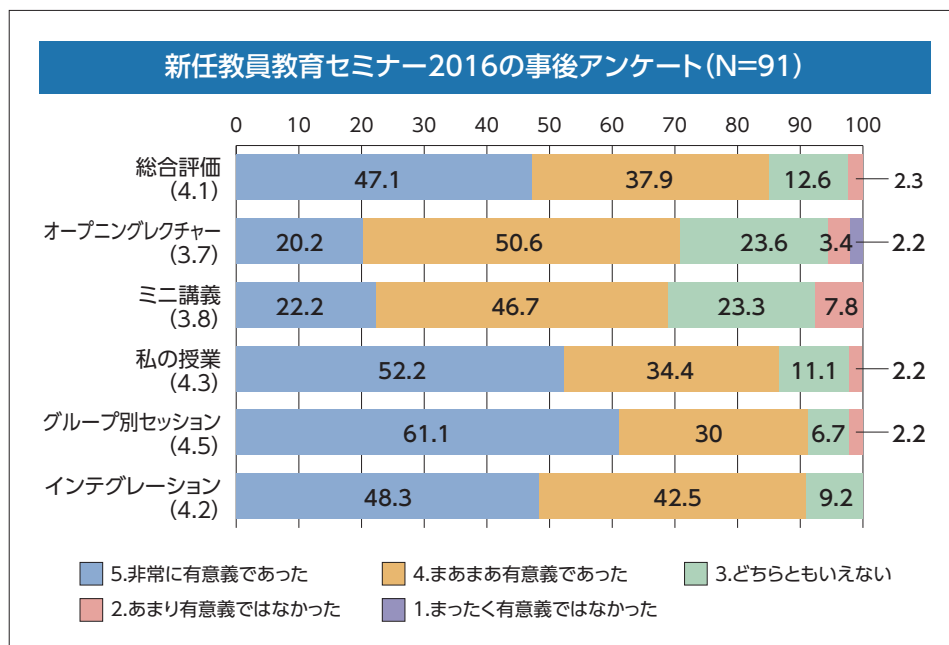
セミナーの開催時期については、適切であったという評価が76.6%、適切ではなかったという評価が2.6%、どちらともいえないという評価が20.8%でした（無回答15.4%）。

### <適切であった理由>

- 実際に1度講義をしたあとでの開催ということで、ちょうど良かったと思います。
- 夏季休暇中で時間の融通が効き、また本セミナーの内容を後期の講義に生かすことができる。
- 京大のシステムを少し分かったところで、サポートしていただける組織について教えていただけて良かったです。OCWなど知らなかったので分かって良かったです。
- 四月の着任当初よりは思うところなども出てきている時期だったので、そのような点について他の先生方と話す機会をもつという意味でも適切だったと思います。
- 実体験を得た上でもう一度自分のやっていることを見直す機会を与えられたことは、大変有意義であった。

### <適切ではなかった理由>

- 年度の始めの方がよいと思う。
- もう少し早い時期、具体的には夏休み前の7月上旬ぐらいが良いような感じがしました。夏休み中にいろいろと考えて、後期に向けて準備できるような気がします。
- この時期は長期出張する教員が多いので、参加しにくい人もいるのでは？後期へ活かすためには、もう少し早い方がよい。
- セッション1～3はもう少し早いタイミングで聞けた方が、自分の授業を作る上で参考になったかと思う。一方セッション4、5は今くらいの時期が妥当だと思った。



### ③プログラム全体で追加すると良いと思われるもの

グループ別セッションを複数出られると良いといった意見を始め、以下のようなトピックが寄せられました。

- インテグレーションセッションに参加して他のグループ別セッションにも出てみたかったと思ったので、2つくらいのセッションに参加できるようにされてもいいように思いました(時間的制約はあると思いますが)。
- 研究室における英語でのコミュニケーションについて。
- 「研究倫理や研究公正」のセッション
- 他大学での取り組みの紹介(できれば具体的に)。
- 情報環境機構の活用の仕方について。
- 各学部間での研究・教育内容の紹介。もっとinteractionできるはずだと思うので。
- 講義の方法に加えて研究の指導法について考えられるものがあると良い。

### ④グループ別セッションで追加すると良いと思われるもの

留学生対応やワークライフバランス、アウトリーチ活動など多様なニーズが寄せられました。

- 授業評価の仕方。
- 留学生への対応。
- 研究室における英語でのコミュニケーションについて。
- アウトリーチについて。
- 社会人や実務者教育に関するセッションがあったら興味深いと思う。
- 子育てとの両立方法、工夫している点に分かるセッションがあればうれしいです。
- 4回(4週)に分けてすべてのセッションを履習できればもっとよい。

### ⑤本セミナーの改善すべき点

最も多く出た意見として、インテグレーションセッションの時間が少なくもっと欲しかったといったものでした。他にも、時間配分(厳守)、休憩時間を増やす、各セッションの目的の明確化、参加型(議論)の時間を増やすといった点があげられました。

- 時間配分と進行をもう少し考えた方が良いと思う。どうしても各セッションで長くなりがちなので。

- セッション3「私の授業」が、いまいち目的が分かりにくい項目だった(各先生がおっしゃっていたこと自体は参考になった)。
- 講義を少し短くして参加型の時間を長くした方がよいと思います。
- 休憩時間がもう少しあると良い。
- インテグレーションセッションがとても良かったので、もう少し時間が長くあれば良かったです。
- もう少しインテグレーションの時間を長くした方がよいように思えた。新任だけでなく、現職バリバリの教員の先生方も参加して良い内容のように思えた。
- 時間も短くできることも限られるので、細かいTipsに特化するのもありではないか。

### ⑥本セミナーに参加して良かった点

たくさんの感想をいただきました。全て掲載できませんが、他分野の先生方と話せたりつながりができたことを良かったと感じておられる先生が多かったです。教育に対して自信がついたり、意欲が上がったといった声も聞かせていただきました。

- 新人の他学部の先生と会話できたのは非常に良かった。半年間教員を経験して本当にこれで大丈夫なのかと思うところが多々あったので、まとまった意見を聞けて今後の参考になった。
- 教育についての意欲が上がった。他の分野の先生と話しができて、他分野の教育についての悩みも共有できた。授業実践では、明日からでも使える方法を教えていただき、参考になりました。ありがとうございました。
- 他の教員と問題点、京大のアドバンテージについて共有できたこと。教育≠研究ではないが、良い研究は良い教育につながるだろうと再認識。
- 他の部局の教員とのつながりができた。今後の教員活動に活かせる情報を得られた。
- ひとりでは解決できないことや、気づけないことをたくさん共有させてもらえて良かったですし、モチベーションになりました。

こうした意見を参考に、今後もよりよいプログラムになるよう改善していきたいと思います。

(山田 剛史)





## 2. 教育サポートリソース

京都大学には、教育サポートを行っている多くの組織があります。しかし、従来、その活動を一目で見渡せる資料がありませんでした。そこで2012年に作られたのが、パンフレット「京都大学の教育サポートリソース」です。

その後、組織の改編・統合があり、活動の中身も変わってきました。それに伴い、それぞれの組織から情報を提供していただきながら、2015年度に第2版、2016年度に第3版を作りました。

教育に関わるサービスを提供している組織として、情報環境機構、図書館機構、総合博物館、学生総合支援センター、環境安全保健機構（保健診療所）、国際教育支援室及び国際教育交流課、男女共同参画推進センター、そして本センターの活動が紹介されています。

本パンフレットは新任教員教育セミナーのプログラムにおいて参加者に配布し、説明を加えたほか、後日、全学の教員にも配布しました。

教育上で何か困ったことが起きたとき、何か新しいことをやろうとするときに、役に立つパンフレットになっています。ぜひ手元に置いてご利用ください。

### ● 京都大学の教育サポートリソース

[http://www.fd.kyoto-u.ac.jp/resource/2016support\\_resorce.pdf](http://www.fd.kyoto-u.ac.jp/resource/2016support_resorce.pdf)

（松下 佳代）



### 3. プレFD

「プレFD」とは、これから大学教員になろうとする大学院生やオーバードクター(OD)・ポスドク(PD)のための職能開発活動の総称です。ここでは、本センターが支援する、3つのプレFDの取り組みについてご紹介いたします。

#### (1) 文学研究科プレFDプロジェクト

文学研究科プレFDプロジェクトは、文学研究科とFD研究検討委員会が共同で主催する、文学研究科のODによるリレー講義形式のゼミナールで、2009年度から実施されています。

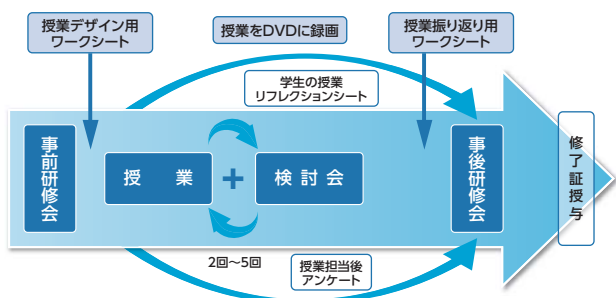
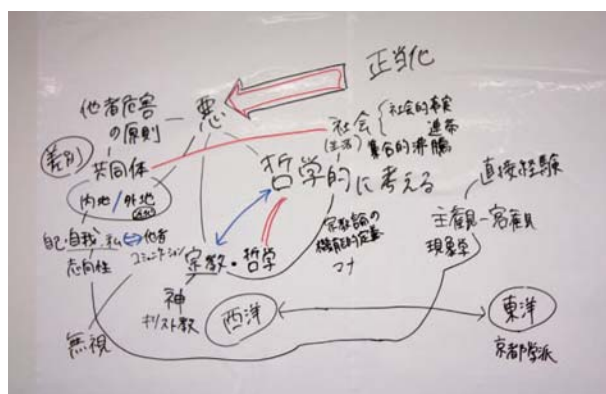
本プロジェクトは、年度はじめの事前研修会、各ODを講師とする2～5回の公開授業、他の講師及びコーディネーターを交えた授業ごとの検討会、そして年度末の事後研修会により構成されます。所定の条件を満たした講師には、京都大学総長よりプロジェクトの修了証が授与され、すでに約120名が修了証を得ています。

2016年度は、文学研究科よりコーディネーター4名、教務補佐員3名、講師20名が参加し、本センターより4名がこれをバックアップする形で、行動・環境文化学系、哲学基礎文化学系と基礎現代文化学系の3つのリレー講義が展開されました。

本授業は、公開授業となっており、学内教職員の参観は随時可能です。日程などの詳細は、以下のHPをご覧ください。

#### ● 文学研究科プレFDプロジェクト

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/prefd/literature/>



文学研究科プレFDプロジェクトの流れ

文学部での授業の様子

## (2) 大学コンソーシアム京都・単位互換リレー講義

2015年度より、文学研究科プレFDプロジェクト修了後の発展的プログラムとして、大学コンソーシアム京都との連携のもと、文学研究科が提供する単位互換リレー講義「人文学入門」が開講されました。本授業は、文学研究科が初めて大学コンソーシアム京都に提供する単位互換授業で、京都駅近くのキャンパスプラザ京都にて実施されています。受講生は、京都大学の学生を含め、さまざまな大学から集まっています。本授業は、特色ある科目として、大学コンソーシアム京都により「プラザ推奨科目」に認定されています。

2016年度は「常識を手放す旅 アジアから現代日本が見えてくる」を全体テーマとして、コーディネーター1名と講師7名が日本を含むアジア全体の近・現代の問題について言語学・歴史学・社会学・地理学といった様々なアプローチから授業を展開しました。

本プログラムでは、プレFD修了生が協力し合い、個々の担当授業だけでなく、半期15回の講義全体をデザインするという経験を積むことに主眼がおかれているため、プロジェクトは開講の1年前からスタートします。そこで、各自の担当授業と、全体目標とのすりあわせを行いながら、シラバス作成を行います。また、開講直前には、それぞれが「授業デザインワークシート」を持ち寄り、全体の到達目標を見据えて、各自の授業目標を確認、そのための具体的な授業デザインを検討しあいます。

若手講師がそれぞれ創意工夫を凝らし、アクティブラーニングを取り入れた新たな授業形式にも積極的に挑戦する本授業は、受講生から多くの肯定的評価を得ています。2015年度の受講生に授業に対する満足度を5件法(1:まったく満足していない ~ 5:非常に満足している)で評価してもらったところ、全体平均4.73点となり、プレFD修了生たちの授業が魅力的なものとなっていることがうかがえます。

また、2015年度の本プログラムの経験者のうち、テニユア職についての講師へのインタビューを実施しており、今後、一連のプレFDプログラムの効果検証を行う予定です。

### ● 文学部単位互換リレー講義「人文学入門」

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/prefd/literature/consortium/>



大学コンソーシアム京都での授業の様子



(3) 大学院生のための教育実践講座

大学院生のための教育実践講座は、FD研究検討委員会が主催となり、将来、大学教育に携わることを希望する京都大学の大学院生(PD・研修員などを含む)のために、ファカルティ(大学教員)へと自己形成していくきっかけとなる場を提供するプログラムです。2016年度は、8月23日午前10時から午後6時半まで、百周年時計台記念館2階で開催され、参加者は36名でした。研修会直後にアンケートを実施し、回答数31件についてコースに対する満足度を5件法(1: まったく満足していない ～ 5: 非常に満足している)で評価してもらったところ、全体平均4.23点(グループ討論4.16点、ミニ講義4.10点、コミュニケーションデザイン4.39点)となり、この取り組みに対する高い満足度がうかがえます。本センターでは今後も、若手研究者が将来大学教員となるための準備をすすめることができるよう、以上のようなプレFDの取り組みを強力に支援していきたいと考えています。

● 大学院生のための教育実践講座

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/prefd/study/index.html>



グループごとのディスカッションと全体討論の様子

# 京都大学のプレFD

**PREPARING FUTURE FACULTY PROGRAM of Kyoto University**



京都大学 Center for the Promotion of Excellence  
in Higher Education, Kyoto University  
高等教育研究開発推進センター

京都大学 | 国語高等教育院

[サイトマップ](#)
[お問い合わせ](#)

---

京大のプレFDとは	大学院生のための教育実践講座	文学研究科プレFDプロジェクト	研究科横断型プログラム	サイエンスコミュニケーター事業	関連リソース
-----------	----------------	-----------------	-------------	-----------------	--------



## PREPARING FUTURE FACULTY PROGRAM Kyoto University

Center for the Promotion of Excellence in Higher Education

### Information

---

2016年8月23日

**Event**

「大学院生のための教育実践講座2015—大学でどう教えるか—」（主催：京都大学FD研究検討委員会 共催：京都大学高等教育研究開発推進センター）が開催されました。

---

2015年6月29日

**Event**

「大学院生のための教育実践講座2015—大学でどう教えるか—」（主催：京都大学FD研究検討委員会 共催：京都大学高等教育研究開発推進センター）が開催されました。



● 京大のプレFDとは



● 院生研修



● 文学研究科プレFDプロジェクト



● 研究科横断型授業

● 京都大学のプレFD <http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/prefd/index.html>

(田口 真奈・福田 宗太郎)

## 4. 全学教育シンポジウム

このシンポジウムは、1996年から年1回開催されており、京都大学の教職員が全学的な教育のあり方や、教育の改善・充実の方向性について議論し、部局の枠を越えた教職員の交流をはかる場になっています。近年は教育担当理事が主催し、2015年度からFD研究検討委員会の企画により、教育推進・学生支援部教務企画課教育企画掛の協力の下、本センターが実施・運営を行っています。

2016年度から本学独自の特色入試が実施され、データを重視する第3期中期目標・中期計画期間が始まったことを受け、今回のシンポジウムは、「データと理想にもとづいて考える京大の教育改革―入試から大学院教育まで―」をテーマに設定しました。9月9日に桂キャンパス・船井哲良記念講堂で開催され、参加者は240名でした。

### (1) プログラム

午前の部では、京都大学を取り巻く教育改革の現状や方向性に関する北野正雄教育担当理事の基調講演に続き、京都大学の大学院教育における先駆的・特色的な取組について、いくつかの研究科やプログラムからの報告を通じて共有を図りました。

午後の部では、データという観点を踏まえ、世界の大学の中における京都大学の教育体制を展望する山極壽一総長の基調講演の後、教学IR（教育についての組織的な調査分析）の基本的な考え方や方法について、本センターより話題提供を行いました。さらに、京都大学においてデータにもとづいた教育改善に取り組んできたいいくつかの部局から、実践の成果や現状に関する報告を受け、今後の京都大学における教学IRの可能性、課題や展望等について、パネルディスカッションを行いました。

### (2) 参加者の声

参加された先生方のご感想・ご意見をうかがうために、アンケート調査を実施しました（有効回答数98件、回収率40.8%）。興味深かったプログラムとしてはテーマ2の部局からの報告（38.8%）が最も多く挙げられ、基調講演2（33.7%）、テーマ1の部局からの報告（31.6%）と続きました。「課題に対して、各部局がどのような取り組みをしているか、知識を得ることができた。」「データをもとにある程度教育現場の現状をとらえるということが、大事だと非常に感じました。」といった感想もあり、プログラム自体は概ね好ましく評価されていました。また、小規模な勉強会・ワークショップに参加したいと思うテーマとしても、中退者・成績不振者への対応（24.5%）、教育方法（アクティブラーニング、PBLなど）（23.5%）、教育情報の収集・分析・活用（IRなど）（22.4%）などが多く挙げられており、シンポジウムで扱ったテーマへの関心の高まりも感じられました。感想の中には報告内容についてのクリティカルなコメントや、自身の所属部局と関連付けた考察なども寄せられており、それぞれの参加者が教学IRや

学部・大学院教育について深く考えるための機会を提供できたのではないかと考えられます。

※アンケートの回答については複数回答可であったため、合計は必ずしも100%にはなりません。

（松下 佳代・後藤 崇志）



## 全学教育シンポジウム プログラム

司会進行：田口 真奈 高等教育研究開発推進センター准教授

【午前の部】	
10:00～	開会挨拶・基調講演 1：北野 正雄 理事・副学長(教育・情報・評価担当) 「京都大学が直面する課題と教育改革の方向性」
10:30～	テーマ1：「京大の大学院教育—何が課題か?—」 趣旨説明：松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授
10:35～	■報 告 ①博士課程教育リーディングプログラム 石田 亨 情報学研究科教授(デザイン学大学院連携プログラム) ②海外の大学院との連携(ジョイントディグリー、ダブルディグリーなど) 平田 昌司 文学研究科長 石原 慶一 エネルギー科学研究科教授 ③大学院教育の多様化と柔軟化・学際化 北村 隆行 工学研究科長 安里 和晃 文学研究科特定准教授(アジア研究教育ユニット) ④大学院教育と社会の接続(キャリア支援など) 杉野目道紀 工学研究科教授・理事補(教育担当)
11:55～	■質疑・ディスカッション
12:30～	(昼食・休憩)
【午後の部】	
13:40～	基調講演 2：山極 壽一 総長 「京都大学の教育体制を世界の大学のデータから展望する」
14:00～	テーマ2：「データから京大の教育をとらえる」 趣旨説明：飯吉 透 高等教育研究開発推進センター長・理事補(教育担当)
14:05～	■報 告 話題提供 山田 剛史 高等教育研究開発推進センター准教授 「教学IRとは」 部局からの報告 理 学 部：畑 浩之 理学研究科教授 工 学 部：三ヶ田 均 工学研究科教授 薬 学 部：加藤 博章 薬学研究科教授 経 済 学 部：北田 雅 経済学研究科講師 教 育 学 部：服部 憲児 教育学研究科准教授 国際高等教育院：三輪 哲二 国際高等教育院副教育院長
15:35～	休 憩
15:50～	■パネルディスカッション「データから京大の教育をとらえる」 モデレーター：飯吉 透 高等教育研究開発推進センター長・理事補(教育担当) パネリスト：山極 壽一 総長 北野 正雄 理事・副学長 畑 浩之 理学研究科教授 三ヶ田 均 工学研究科教授 加藤 博章 薬学研究科教授 北田 雅 経済学研究科講師 服部 憲児 教育学研究科准教授 三輪 哲二 国際高等教育院副教育院長
16:55～	閉会挨拶
17:00	終了
17:15～	情報交換会 カフェ「Arte」